

# 19. 家庭科教育への示唆を得るための家庭における 主婦の実態調査（第3報） 主婦の地位

日本女子体育短大 末広 和子

1. 法制上の改変によって、制度の上に男女平等の地位が確立されて以来10年余の今日、現実の生活の上にはまだ過渡期的な現象が残っているようである。個々の家庭において、夫妻の間ではどうであろうか。民主的な精神と態度の養成を使命の一つとする現下の家庭科教育へ示唆を得る目的で、既報の実態調査によって主婦の地位に関する問題を調べてみた。

2. (1)実態調査の概要は第1報で述べたが、今回の報告に関する内容は、①対象者の家庭における地位の自己評価 ②生活慣習に関する数種の質問 ③婦人の地位の向上要因、以上をそれぞれ具体的な設問によって質ねたものである。その回答を整理分析した。

(2)更に、労働省婦人少年局の調査報告を参照して考察を行った。

3. (1)上記①については、自己の地位に満足している者が全体の55%あった。年令、学歴等によって相異がみられた。②と自己評価との関係は少いようである。③男性の理解や婦人の自覚を要因にあげたものがそれぞれ約50%、封建的慣習の打破や家庭生活の合理化を要因にあげたものがそれぞれ30%あった。これは、現下の家政学ならびに家庭科教育の課題を示しているようである。